

令和 8 年 上富良野町議会第 3 回定例会

一般質問 質問事項一覧

届出順	氏 名	質 問 事 項
1	6 番 林 敬 永	1 本町における農業行政の現状と今後の農業者支援について 2 道の駅整備に向けた「道の駅見学会」の成果報告と今後の計画への反映について
2	3 番 湯 川 千悦子	1 予約型乗合タクシーの今後について 2 物価高騰対策として町の行う生活支援策は
3	2 番 荒 生 博 一	1 プレミアム商品券事業について 2 夏の観光・イベント施策の成果と課題について
4	5 番 金 子 益 三	1 草分防災センターの改修を行わないか 2 近年の猛暑に対応するため役場庁舎内の窓口にエアコンを設置する考えは 3 上富良野にゆかりある「ビールで乾杯条例（仮称）」を制定する考えは
5	10 番 井 村 悦 丈	1 町の基幹産業である農業をどう守っていくか 2 物価高騰で苦しい生活を、地域での消費を通じて支援する商品券の発行を
6	4 番 米 澤 義 英	1 防災対策について 2 自衛隊の募集事務について 3 補聴器購入補助について 4 公営住宅の管理について 5 ごみのリサイクルについて
7	1 番 佐 藤 大 輔	1 津市との友好都市提携 30 周年を契機とした今後の交流について
8	12 番 小 林 啓 太	1 地域おこし協力隊について
9	7 番 茶 谷 朋 弘	1 今後の公園整備と利用しやすい環境づくりについて 2 かみふらの夏まつりの成果と今後の町民向けイベントについて

一般質問通告書(令和8年9月定例会)

※令和8年9月2日現在

氏名・質問事項・答弁先	質 問 要 旨
1 6番 林 敬永 1 本町における農業行政の現状と今後の農業者支援について (町 長)	上富良野町の農業行政については、令和6年3月策定の「第9次上富良野町農業振興計画」に基づき農業振興が図られ、さらにその取組む施策の実効性を高めるため、重点的に進める施策を年次的・具体的に示すものとして「上富良野町農業・農村振興実践プラン」が策定されています。この中、現在の農業を取り巻く状況は長引く燃油・肥料・資材等の高止まりと深刻な担い手不足は、本町の基幹産業である農業の基盤そのものを揺るがす深刻な事態となっています。 国や道の支援策だけでは補いきれない現場の窮状に対し、本町として基幹産業を守り抜く強い覚悟を持ち、独自の経済的セーフティネット（補正予算での経営継続支援など）をさらに拡充・前倒しで講じることなど、以下の点について町長の考えを伺います。 （1）販売価格の上昇がみられるものの、依然として高止まりが続く肥料や生産資材、燃油等の価格高騰は、町内農業者の経営を激しく圧迫しています。国や道の補助事業に加え、本町の基幹産業たる農業を守り抜くため、町の特性に合った町独自の支援策や、追加的な経営継続支援などの緊急対策を講じる考えがあるのか伺います。 （2）労働力不足と高齢化が深刻化する中、作業の省力化・高効率化をもたらす「スマート農業」の導入は、今後の事業継続には必要不可欠なものと考えます。しかし、自動操舵システムやドローン、各種センサー等の導入には多額の初期投資が必要となり、個々の農業者にとっては高いハードルになっていると聞いています。実践プランにおいては、令和9年度からの「スマート農業普及促進事業」の「実施」と明記されていますが、現在の現場の危機感に照らし、具体的にどのような事業内容を組み立てしているのか伺います。
2 道の駅整備に向けた「道の駅見学会」の成果報告と今後の計画への反映について (町 長)	町長の公約である「道の駅整備」に向けて、広く町民等の声を計画に反映させるべく、令和7年度に「道の駅見学会」が2回実施されたと聞いています。公金を投入して実施された本事業は、町民との協働によるまちづくりを進める上でも意義のある取り組みであると考えます。しかしながら、実施後現在に至るまで、議会ならびに広く町民に対してその具体的な成果報告がなされていません。事業の透明性を確保するとともに、町民においては関心のある事業の一つと思いますので、以下の点に

	ついて町長の考えを伺います。 (1) 道の駅見学会の総括と具体的な成果について 令和7年度に実施された2回の見学会について、それぞれの参加人数、視察日程、視察先を選考した理由について伺います。また、参加した方から具体的にどのような意見、感想、要望あるいは懸念事項が寄せられているのか伺います。 (2) 成果報告の公表と今後の共有方針について 本事業の実施後、現在に至るまで成果報告がなされていません。今後いつ、どのような手法を用いて、視察で得られた成果を町民全体に広く共有していく予定なのか伺います。 (3) 今後の構想への反映について 本見学会を通じて得られた貴重な意見や提案を「行って終わり」とするのではなく、今後の道の駅整備や、施設の具体的な運営方針にどのように反映させていく考えか伺います。
2 3番 湯川 千悦子 1 予約型乗合タクシーの今後について (町 長)	現在、本町では、町民の身近な移動手段として乗合タクシーが運行されています。 これまで民間の事業者2社が運行を担っていましたが、今年3月に2社のうち1社が営業を終了したことにより、町が運営を引き継ぐ形となりました。町民の移動手段を確保するため、町が運行を継続していることは評価するところです。 一方で、運行時間の短縮や前日までの予約が必要となったこと、昼休みの対応が無いこと、車両台数が少ないことなど、町民からは「以前より利用しにくくなった」との声が多く寄せられています。予約型乗合タクシーは、高齢者や障害者の方々の日常生活を支える重要な交通手段です。 そこで、4月から7月までの利用実績を聞きますと、今後さらに利用者のニーズに応えて行くためには、現在の運行体制を見直す必要があると思われます。 町の事業として運行する場合、労働時間などの制約から、現在の運行時間となっていることは理解しています。しかし、町民にとって、より利用しやすい予約型乗合タクシーとするためには、限られた時間の中で、どのように運行体制を充実させていくかが重要だと思います。 そこで町長に以下3点について伺います。 (1) 現在の利用者の声を町はどのように把握しているか。 (2) 現在の利用状況を踏まえ、今後、車両の台数を増やし、より多くの予約に対応できる体制を整える考えはあるか。 (3) 予約受付や配車、運転手への経路案内など、A Iなどの

	デジタル技術を活用して、運行業務全体を効率化していく考えはあるか。
2 物価高騰対策として町が行う生活支援策は (町 長)	今年も昨年に引き続きさらに物価高騰は続き、毎月生活に関わる食品や物品の値上がりが報道されており、9月からの飲食料品の値上げは、約5千品目と発表され、今年最大の値上げラッシュとの報道がされました。町民の生活は逼迫する一方である。そこで、町長に以下の2点について伺います。 (1) 今年度、プレミアム商品券を発行する考えはあるのか。 (2) 今年度、プレミアム商品券以外に、町民に対しての生活支援はあるのか。
3 2番 荒生 博一 1 プレミアム商品券事業について (町 長)	先日の帝国データバンクの公表によると、年内に実施・予定されている飲食料品値上げ品目数は累計で1万8347品目に達しています。中でも9月は、4531品目が単月で4千品目を超え、2026年内としては最多となります。単月としては、2023年10月の4758品目以来の水準となります。このように度重なる物価高騰が町民生活を直撃する中、歳末・年始の需要が高まる12月からの消費を支える施策が極めて重要と考えます。 家計の負担軽減と町内事業者の売上拡大を両立させる即効性の高い手立てとして、プレミアム付商品券事業を早期に実施すべきと考えますが、町長の見解をお伺いします。
2 夏の観光・イベント施策の成果と課題について (町 長)	本年の夏は、7月4日から12日にかけて「ラベンダーフェスタかみふらの2026」の夜間ライトアップが実施され、また従来の最終日デイイベントを時期変更・再編した新たな「かみふらの夏祭り」が8月8日に初めて開催されました。これら2つの夏の試みを終えた現在、事業の成果の検証と次年度に向けた課題について、以下4点町長にお伺いします。 (1) イベント周知の実態と町民参加について 「ラベンダーフェスタ」の前夜祭や、初開催となった「かみふらの夏祭り」において、町民への事前周知が不十分だったのではないかとの声が聴かれます。広報・周知の取り組みの実態について伺います。 (2) 運営体制・収支結果と今後のあり方について 両イベントの運営体制と現時点での収支結果（事業費・収入内訳等）について伺います。あわせて、運営上の課題を踏まえた今後のイベントの方向性や持続可能な体制づくりについて、町長の見解を伺います。

	(3) 夕刻以降の交通渋滞への対応について 今般のライトアップイベントにおいては、午後5時以降駐車場を有料とし、代金は自動精算機により徴収が行われました。その際、駐車場の有料化についての事前周知の対応や、精算機が現金非対応であったことによる現地での混雑や旅行者の困惑に対し、どのような誘導・サポートが行われたのか。 また、入庫待ちの車両が本線まで延伸し渋滞が発生した要因はどのように捉えているか。そして、警備員の配置や誘導の適正さについて<u>どのように</u>捉え、次年度に向けどのように改善を図るのか伺います。 (4) 地域経済効果と今後の地域活性化策について 「ライトアップイベント」及び「かみふらの夏祭り」の開催による町内の人流動向、飲食店・宿泊施設等への経済波及効果をどのように捉えているか。また、この成果を踏まえた今後の地域活性化に向けた施策展開について伺います。
4 5番 金子 益三 1 草分防災センターの改修を行わないか (町 長)	今年の6月に入り十勝岳の噴火警戒レベルが2へと引き上げられた。噴火レベル2は火口から1.5キロの入山規制がなされるなどの措置であり、一般的な居住区域への避難指示などは発令はなされない。しかし今後降雪積雪期を迎えると、いくつかの条件下において噴火警戒レベルが3を越して4へと引きあがる可能性もあると言われている。いたずらに風評被害を流布するつもりはないが、噴火警戒レベルが低い時こそ備えをすることが望ましい。ごく小規模な噴火が3回ほど起きている。このまま火山活動が収まることを切に願うが、万が一に備えて平成2年の建設より30年を超えた草分防災センターの改修が必要と考えるが、町長の考えを伺う。 (1) 避難者が一定期間過ごすための設備として、浴室及びシャワー施設、洗濯機等の水回り及びボイラーの整備、またユニバーサル対応のトイレの新設についての考えは。 (2) ライフラインが切れた時の対応として、電気、ガス、生活用水、燃料の備蓄は、防災センターとして完結できる仕組みが整っているのか伺う。 (3) 躯体として、比較的窓ガラスが多く使われているが、破損飛散防止の防犯防災ガラスが近年発表されており、これらのガラスに交換していく考えは。 (4) 厳冬期の暖房は設置されているが、夏の猛暑に対するエアコン等の設置を行う考えは。

2 近年の猛暑に対応するため役場庁舎内の窓口にエアコンを設置する考えは (町 長)	近年は、日本全国でも40度を超える「酷暑日」などと言われる新しい季節用語も生まれる時代になり、ここ北海道でも35度を超える猛暑日が記録されるようになり、今年、上富良野町でも7月17日には34.1度を記録しており、室内の温度は更に高くなる傾向がある。このような真夏日が続く状況で、町民の皆様が各種手続きで役場を訪れた際に、窓口での待ち時間が非常に暑く不快な思いをしながら待機をされている状態が見られる。スポットクーラーでは排気音がうるさくて窓口でのやり取りに不便を生じているので、役場総合窓口付近にエアコンの設置が必要と考えるがいかがか。
3 上富良野にゆかりある「ビールで乾杯条例（仮称）」を制定する考えは (町 長)	上富良野町はビール大麦とホップを生産する、全国でも稀な自治体であり、サッポロビールのホップ研究施設も町内に有している。町と企業のつながりは基より、ホップ会をはじめとした町民有志によるビールを楽しむ団体も複数あり、企業と強いつながりをもって上富良野町とビールの絆をアピールしていただいてきた歴史がある。この間、開拓使麦酒醸造所において上富良野町のビール大麦とホップを使って作られた地ビールも大変人気を呼び、ふるさと納税の返礼品など町内外の方々に愛されている。近年は民間による町内産のクラフトビールも人気があり、上富良野町を代表する特産品の一つにもなっている。 このように上富良野町とビールは一つの文化に発展しているので、わが町も、上富良野にゆかりある「ビールで乾杯条例（仮称）」を制定する考えはないか伺う。
5 10 番 井村 悦丈 1 町の基幹産業である農業をどう守っていくか (町 長)	今年も、新米が流通出回り始める時期となった。米の価格は、令和の米騒動とも呼ばれた品薄をきっかけに急騰したが、2026年に入り状況は一変し、新聞報道によればホクレンの2026年産主食用米の概算金は前年比約4割減となっている。 第9次上富良野町農業振興計画書によると、農家戸数は、平成12年(2000年)494戸、令和2年(2020年)には246戸と半減し、うち後継者のいる農家は45戸18.3%であり、今後も農家戸数が大幅に減少することが危惧される。 また、上富良野町の令和5年度農業経営に関する調査においても、83%以上が後継者はいないと回答しており、最近は経済的理由よりも、一番に高齢による離農が多くなってきている現状が伺える。 当町の作付実態調査面積は約6千haで、その大半は条件不利地として中山間地域に指定されている。農家も作付面積の大規

	模化によって生産性を上げることも可能ではあるが、規模拡大にも限界がある。また、新規就農者等においても、複雑な農業利権によって農地の取得や大規模化は難しいのが実情である。 このような現状において、当町の農地を継続して守りつつ、農業の振興を図ることが課題だと考え、以下2点について町長に伺う。 (1) 農業従事者の高齢化が著しく進行することが予想される中、10年先を見据えた町独自の施策を考えるべきではないか。 (2) 今後、離農が進むことによって、農地の遊休化や荒廃が危惧されることから、農地が流動化されるよう町独自の施策を考えるべきではないか。
2 物価高騰で苦しい生活を、地域での消費を通じて支援する商品券の発行を (町 長)	今、物価高はもはや一時的な現象ではなく、社会の構造そのものを変える決定的な要因となっている。 日本の物価情勢は「一過性のショック」を通り越し、社会の仕組みを根本から作り替える「物価高の定着期」にある。 現在の物価高騰は実質賃金に大きな影響を与えていて、物価上昇率に追いついておらず、実質賃金の増加は見込めない状況にある。 消費生活は困窮、日々の生活費や家計のやりくりが厳しさを増していることから、地域での消費を通じて、物価高騰の影響を受けた生活を支援することに取り組むべきと考え、次の2点について町長に伺う。 (1) 今年の年末に向けて、これまで実施してきたプレミアム付商品券の発行が必要と考えるが、町長の見解を伺う。 (2) 生活への支援策として、全町民を対象に現金給付や商品券配布等を行う考えはないか。さらに、子育て世帯、低所得世帯を対象に商品券や電子ポイント等を配布する考えは。
6 4 番 米澤 義英 1 防災対策について (町 長)	熊本県、千葉県、福井県等では、地震や豪雨などの自然災害で家屋が損壊し、多くの人が住まいを失い、避難所での生活を余儀なくされている。自然災害はいつ起こるか分からず普段からの備えが必要だと考える。 熊本県では猛暑日が続き、公共施設等での避難生活を送る中には、その暑さにより体調を崩す人も出ている状況が聞かれるが、その避難施設にはエアコンが設置されていない施設もあるとされている。 そこで上富良野町の避難施設の暑さ対策等の現状と対応につ

	いて伺う。
2 自衛隊の募集事務について (町 長)	今、自衛隊員の募集において、本人の同意がない中で自治体から個人情報が提供されていることが問題視されている。北海道弁護士連合会では、自治体に「自衛隊への個人情報提供に関する意見書」を送付したとしている。その中では、自衛隊法第97条第1項及び同法施行令第120条では、「募集事務の一部を行う」「資料の提出」を求めることが出来ると規定しているが、これはあくまでも自治体が行う事務は募集事務に関したものであり、名簿提供は含まれるとは解釈しないと、名簿提供の法的根拠は存在しないとしている。そこで次の点について伺う。 (1) 北海道弁護士連合会から意見書が送付されてきているか。また、名簿提供の現状について伺う。 (2) 現在の法体系では名簿提供の明確な法的根拠は存在しないとされているが、このことに対する見解を伺う。
3 補聴器購入補助について (町 長)	高齢になるにつれて軽度の難聴になるとされている。人との会話に関わりたなくなるなど、難聴が要因で社会との関わりも制限され、健康にも影響を与えることにもなるとされている。最近の研究では、難聴は認知症の危険因子の要因にも挙げられている。 町の介護保険計画でも認知症の予防が必要だとされている。難聴者に対する補聴器補助制度を介護保険計画のなかに位置付けるべきと考えるが、対応について伺う。
4 公営住宅の管理について (町 長)	扇町、西町にある公営住宅の老朽化が激しくなっている。入居者からは床が歪んできている、雪の重みで屋根が歪んでいるなど、修繕等の要望が出てきている。町では入居者の修繕など要望があれば対応はしているが、建物自体が老朽化しているため修繕が追いつかない状況にある。また、条件が合えば他の公営住宅に入居できないかの要望もあるが、現状と今後の対応について伺う。
5 ごみのリサイクルについて (町 長)	町においては燃やすごみを減らすためにごみの分別回収とリサイクルが行われているが、紙類、衣類などが可燃ごみに入っているなど課題があると考え。町も対応はしているが、衣類などの回収については、大型店舗などに回収箱を置き回収率を高める必要もあると考え、現状と今後の対応について伺う。

7 1 番 佐藤 大輔 1 津市との友好都市提携30周年を契機とした今後の交流について (町 長)	来年(2027年)は、本町と三重県津市が友好都市提携を締結してから30周年という節目の年を迎える。これまで両市町では、行政・議会関係者の交流をはじめ、学校間交流、青少年交流、民間レベルでの交流、物産交流など、長年にわたりさまざまな交流が積み重ねられてきた。 地域間のつながりを生かし、人と人との交流を広げていくことは、これからのまちづくりにおいても重要であると考え。30周年をこれまでの交流を振り返るとともに、これからの交流を考える節目として捉え、以下3点について町長に伺う。 (1) これまで30年間にわたり行ってきた津市との友好都市交流について、どのような成果や意義があったと捉えているのか伺う。 (2) 友好都市提携30周年を、どのような機会と捉え、どのような取り組みを考えているのか伺う。 (3) 30周年を一つの節目として、これまで築いてきた津市とのつながりを、今後どのように発展させていく考えなのか、展望を伺う。
8 12 番 小林 啓太 1 地域おこし協力隊について (町 長)	本町では、平成28年より地域おこし協力隊制度の活用を開始し、これまで地域の活性化や課題解決に向けた様々な活動が行われてきました。近年では、任務を修了した隊員の方々が町内に定着し、それぞれの分野で活躍する姿を目にする機会も増えており、制度が本町への人材の定着や地域の担い手づくりにつながっていることがうかがえます。また、現在任期中の隊員の方々についても、それぞれが希望する形で町内に定着し、将来にわたって地域の活力となることを大いに期待しております。 一方で、任務中の隊員の活動をより効果的に支えるマネジメント体制や、任務修了後の定着・活躍を見据えた支援、さらには本制度を本町の人材確保や地域課題の解決に一層有効活用していくためには、まだまだ検討すべき課題があるものと感じています。 そこで、本町における地域おこし協力隊の現状と今後の方向性について、町長に対し以下6点をお伺いいたします。 (1) これまでの受入実績、任務修了後の本町への定着数、任務修了後の就業状況等の実績は。また、町としてこれらの実績をどのように評価しているか。 (2) 現在の募集方針、すなわち、どのような人材を募集するかなどの決定フロー及び、採用を決定する際に重視している点などの採用方針は、どのように定められているか。

	(3) 任期中の隊員に対するフォローについて、誰が、どのような体制で行っているか。 (4) 任務修了後の隊員の町内への定着や生活を支えるため、どのようなサポートを行っているか。 (5) 現在の地域おこし協力隊制度の運用において、町としてどのような課題を認識しているか。 (6) 今後、任務修了後の町内への定着や地域の担い手確保を見据え、事業承継や町内での起業を前提とした地域おこし協力隊員を募集する考えはないか。
9 7 番 茶谷 朋弘 1 今後の公園整備と利用しやすい環境づくりについて (町 長)	町内には、それぞれ異なる特徴を持つ複数の公園が整備されています。公園は、子どもたちの遊び場としてだけでなく、地域住民の憩いの場や健康づくり、スポーツなど、さまざまな目的で利用されています。また、公園によっては、町民だけではなく観光客も訪れ、公園そのものが観光の目的地となっているものもあります。一方で、人口減少や少子化、利用者のニーズの変化など、町を取り巻く環境も変化しています。今後、全ての公園をこれまでと同じように維持・整備していくのか、それぞれの公園の特徴や役割を踏まえながら整備していくのか、町として将来を見据えた考え方が必要ではないかと考えます。 また、本町は積雪寒冷地であり、公園を利用できる期間が限られています。限られた利用期間をできるだけ有効に活用し、町民がより利用しやすい環境を整えていくことも重要と考えます。 そこで、今後の公園整備と利用しやすい環境づくりについて、4点伺う。 (1) 町では、それぞれの公園を現在どのように位置付け、今後どのような役割を持たせていく考えなのか。 (2) 各公園の役割や利用状況を踏まえ、今後の維持管理や遊具・施設の更新を含め、どのような考え方で公園整備を進めていくのか。 (3) 今後の公園整備や遊具の更新に当たり、利用者や地域住民の意見をどのように把握し、整備に反映していく考えなのか。 (4) 雪解けが早く、安全確認が完了した公園については、一律の開園時期を待つのではなく、順次利用できるようにするなど、気象状況に応じて柔軟に利用開始時期を見直す考えはないか。

2 かみふらの夏まつりの成果と今後の町民向けイベントについて (町 長)	これまで、ラベンダーのライトアップ期間に開催されていたラベンダーフェスタの最終日には、出店やステージイベントなど、町民向けのイベントが実施されていた。しかし、観光客の来場が多いことなどから、町民が駐車場を利用しにくいなどの課題もあり、今年は町民向けのイベントとして別日に切り離し、新たに「かみふらの夏まつり」として開催された。また、かつて実施されていた花火も復活し、多くの町民から喜ばれたものと感じている。イベントは、町民にとって楽しみの一つであるとともに、世代を超えた交流や地域のにぎわいにもつながるものとする。一方で、以前と比べ、運営上の人員や負担などの理由から、イベントの規模が縮小しているのではないかと感じている町民の声も聞いている。 そこで、以下３点について伺う。 (１) 新たな形で開催したかみふらの夏まつりについて、町では今回の開催をどのように評価しているのか。また、従来は午前から開催していたイベントを、熱中症対策などを考慮し夕方からの開催に変更したことについて、来場者や参加者、出店者などにどのような影響があったと捉えているのか。今回の開催を通じて把握した成果と課題について伺う。 (２) 今回の開催で得られた成果や課題を踏まえ、来年度以降、かみふらの夏まつりをどのように継続・開催していく考えなのか伺う。 (３) 町民が定期的に楽しみにできるイベントは、地域のにぎわいや交流につながる重要なものとする。運営上の人員や負担などの課題もある中で、町として年間を通じて町民向けイベントをどのように位置付け、今後どの程度の頻度や規模で開催していく考えなのか伺う。
--	--